

2025 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1年次/1年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023 年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/後学期/後学期 : /Second term/Second term
分類/Category	//基本教養 : //Foundations in Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月 3 : /Mon.3

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10121307			
科目番号 /Course Number	10160150			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	社会学Ⅱ : Sociology II			
担当教員名 / Instructor(s)	/(中谷 勇哉) : NAKATANI Yuya			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code	B_PS1220			

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	本講義では、社会学的な視座・理論と個別事例の紹介を通して、身の周りの社会現象を理解・分析するための方法を学ぶ。
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	受講生は、基本的な社会学的知見を獲得し、現代社会を分析していくための学術的な視座を身につける。 その視座をもって身のまわりの社会現象を考察できるようになる。
英	

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第 1 回	ガイダンスとイントロダクション
	英		

2	日 英	第2回	社会学は何をする学問か: 社会学の対象・目的・方法
3	日 英	第3回	後期近代化とアイデンティティ(1): 後期近代化論とライフ・ポリティクス
4	日 英	第4回	後期近代化とアイデンティティ(2): 「自己啓発」の社会
5	日 英	第5回	逸脱と包摂(1): ラベリング理論と構築主義
6	日 英	第6回	逸脱と包摂(2): 社会問題とクレイム申し立て
7	日 英	第7回	ジェンダーとセクシュアリティ(1): 性別役割分業と「生きづらさ」
8	日 英	第8回	ジェンダーとセクシュアリティ(2): 宇崎ちゃん騒動と言説分析
9	日 英	第9回	文化と労働: アイドルと感情労働
10	日 英	第10回	医療と福祉: 社会の医療化とボランティア
11	日 英	第11回	メディアとコミュニケーション(1): メディアの受容とオーディエンス
12	日 英	第12回	メディアとコミュニケーション(2): SNS とネット右翼
13	日 英	第13回	社会学の方法(1): 社会調査の考え方
14	日 英	第14回	社会学の方法(2): 社会調査の実践
15	日 英	第15回	まとめ

履修条件 Prerequisite(s)	
日	三大学教養教育共同化科目であり、履修条件は特にないが「社会学1」と合わせて履修することが望ましい。 授業計画については受講人数や進捗状況などにより一部変更になることがある。
英	

授業時間外学習（予習・復習等） Required study time, Preparation and review	
日	社会学で扱われる対象は多岐にわたり、一見とりとめのない学問に見えるかもしれない。受講生には、関心のある社会現象を個別的に理解するだけでなく、それが他の社会現象や社会全体の歴史的な動きとどのような関係にあるのかというマクロ的な視点をもって学習してもらいたい。そのために、講義内で扱った概念・理論を互いに関連付けながら、また自身の経験にも引き付けつつ復習してもらいたい。 また、本講義は三大学教養教育共同化科目であり、自身の専門分野との類似点・相違点についても考えながら受講してもらいたい。 本講義に対しては、67.5 時間の予復習に充てる自己学習時間が必要である。
英	

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books	
日	テキストは使用しない。参考書は適宜紹介するが、包括的なものとしては長谷川公一ほか編(2019)『社会学(新版)』有斐閣。
英	

成績評価の方法及び基準 Grading Policy

日	講義内課題(30%)、および期末レポート(70%)による。
英	

留意事項等 Point to consider	
日	
英	